

01 杉並第一小学校

平成20年4月指定



【委員の構成】校長、幼稚園園長、元会社代表取締役、宮司、学校支援本部本部長、病院理事長、弁護士、大学教授、町会役員、元青少年委員

共育シンポジウムの開催

平成24年度より、学校運営協議会委員と教職員、保護者、地域の方々に呼び掛け、年に1回「共育（ともいく）シンポジウム」を開催しています。今年度は「最近の子供たちについて」をテーマに、学校運営協議会の委員を始め、教職員、地域の方からパネリストを立てて話題提示していただきながら、5,6人のメンバーでフリートーキングを実施しました。

今回話題になったことは、今の子供には協調性があつたり、友達に対して優しいところがある反面、失敗を恐れ挑戦しようとしていない、目上の人との話し方が下手などがあげられました。このような子供の状況を踏まえ、大人の関わり方として、大人が先んじてやってしまうことなく、子供にやらせてみる姿勢をもつ、親が率先して取り組む姿勢を見せる、異年齢の交流の場を大切にする、などが出されました。学校や保護者、地域と情報を共有しあい、手を取り合って子供たちを育てていくことを確認しました。

【写真】共育シンポジウムの様子。60名の参加者が小グループになり、意見交換をしました。学校運営協議会委員と教職員、保護者、地域が一堂に集まり、互いの意見を出し合う機会を毎年設けています。

02 桃井第四小学校

平成17年4月指定



【委員の構成】校長、自治会役員、学校支援本部長、PTA会長・元PTA役員、会社代表取締役、幼稚園園長、元青少年委員

CS主催で「ももし祭り」

平成24年度に創立80周年の記念事業としてPTA主催で「ももし祭り」を行いました。その後、児童からお祭りを続けてほしいと多くの要望があり、学校・家庭・地域がより連携を深めるきっかけとして、翌年から学校運営協議会主催による「ももし祭り」を行っています。このお祭りは単に催しを行うのではなく、かねてから学校運営協議会で課題になっていた学校支援本部や保護者PTAとの相互関係の確立に大きく役立っています。また、一般の保護者も学校・地域と関わるよい機会になりました。

地域との連携では、地元商店会や自治会、社会福祉法人に加え、近隣の中学・高等学校に参加いただいております。先生方からは、学校主催の行事ではないため、普段とは違ったフリーな立場で児童と接することができ、貴重な経験であったとの感想もあります。この他に「卒業生が帰れる母校 サーモン・プロジェクト」もお祭りのテーマに取り上げ、桃四小を支えてくれる人材育成の取組みも合わせておこなっています。ももし祭りを通じて、多方面の方と対話を重ね協力し合えたことが、今後の学校運営協議会の活動に大きな可能性をもたらしてくれることと思います。

【写真】発足当初より先生方、学校支援本部、PTA、地域代表が参加する「対話型運営協議会」を実施しています。先生方からの活発な意見や対話を共有し、それぞれの活動に生かしています。

03 荻窪小学校

平成25年4月指定



【委員の構成】校長、町会長、周年祝賀会実行委員長、民生委員児童委員、大学准教授、会社代表取締役、元PTA会長、PTA会長

にして欲しい箇所があること、通学時間帯に工事車両が進入する場合に必要な事前申請が守られていないケースがあること等が挙げられた。

【写真】 普段の授業を参観。学校公開日ではなく、通常時の授業を協議会メンバーだけで全クラスを参観しました。クラスの雰囲気や子供達の授業態度等を重点に観察しました。基礎的な認識のレベル合わせの一環です。

学区域の安全対策の問題提起

地域の町会長と震災救援所運営連絡会会長を兼務するCS委員から学区域の安全について、以下の2点の問題提起があり、活発な意見交換が行われました。

(1)防災組織上の管轄警察署が学校と周辺地域とで異なる問題

荻窪小学校は、5年前に荻窪署管内から高井戸署管内に移転したが、防災組織上は旧来のままであるため、災害発生時の救援所立ち上げ等に際し混乱する危険性があることと、小中一貫グループ内では単一の管轄が望ましいと思われることから、防災組織を通じて高井戸署管轄への変更を要請することになった。

(2)通学路の安全性の問題

児童ではないが、通学路上で自転車と自動車の接触事故が発生した。PTAからの要望も考慮して、通学路の安全点検を行い、行政の関係部門に改善要請を行うこととした。進入禁止等交通規制の時間帯が道によって異なるうえに、標識と路面表示が異なる箇所があること、新たに路面表示をして欲しい又は塗り直して鮮明

04 沓掛小学校

平成21年1月指定



【委員の構成】校長、元校長、民生委員児童委員、杉並区スポーツ推進委員、大学教授、学校支援本部員、元PTA会長

協議会・学校・地域でCSを学ぶ

沓掛小学校運営協議会は区内でも少し早目に指定を受けました。設立当初からの一貫したスタンスは、「実働部隊である支援本部が軌道に乗っているので、立ち位置の違いをしっかりと考えて活動していこう」ということでした。基本的なスタンスは「学校の応援団として、沓掛小のあらゆる活動がスムーズに行えるように『学校へ』助言・協力をしていく」でしたが、では実際にどうしたものかと検討を重ねても、なかなか具体的なビジョンが見えませんでした。そこで、「運営協議会」について協議会・学校・地域で勉強をしようと、日本大学の佐藤晴雄教授をお招きして、平成24年1月に講演会とパネルディスカッションを開催しました。近隣小中学校の教員・運営協議会・支援本部にも声をかけ、校長先生が研修に位置付けてくださり、当校の教員も全員が出席できました。この講演会で学校・地域が共に同じ場で「地域運営学校」「運営協議会」について共通認識を持つことが出来ました。また他校の運営協議会にも声をかけ、出席していただいたことは、この後続いていく「3校合同運営協議会」（天沼中学校区地域教育推進協議会の3校である天沼小学校、沓掛小学校、天沼中学校）のきっかけとなりました。

【写真】 佐藤晴雄教授の「子供と先生と地域を元気にするコミュニティ・スクール」講演会。地域運営学校について学ぼうと多くの聴衆が集まりました。パネルディスカッションでは、活発な議論がありました。

05 高井戸小学校

平成23年4月指定



【委員の構成】校長、PTA会長、元PTA会長、民生委員児童委員、町会長、大学教授、元高等学校校長、自治体職員、会社代表取締役、学校支援本部員

先生方の「教育活動」報告

毎月（8月は夏休みで年11回）の運営協議会を中心に、入学式、卒業式、授業見学、運動会、学芸会、音楽会など各種の教育活動・学校行事への参加、『高井戸小CSだより』の発行、学校諸施設の安全点検、講演会の企画・実施など多岐におよぶ。

協議会メンバーは、PTA、学校支援本部、ファミリー会、町内会などの関係者により構成され、地域ぐるみで学校を応援する体制がとられている。

協議会の「盛り上がり」は、さまざまなシーンで見られるが、特に毎月の協議会の、学年ごと、専科、養護の先生方が交代でおこなう「教育活動」の報告は、ハイライトである。学校行事や授業などの様子をとりえたビデオや、児童の作品、データ分析など、先生方の報告はユニークで充実しており、協議会メンバーとの質疑応答も意義深い。内容は、高井戸小学校の現状・課題から、日本の教育に及ぶこともある。

来年、創立140周年を迎えるが、学校を中心に、卒業生や地域の方々とともに、学校運営協議会も「盛り上がり」に貢献できれば、とプランを練り始めている。

【写真】 教務主任と生活指導主任が、次年度の教育課程の重点について説明しているところです。各委員からは、今年度の課題や次年度の特色など資料を基にして質問をして、よりよい教育活動になるように話し合っている。

06 高井戸第二小学校

平成25年4月指定



【委員の構成】校長、民生委員児童委員、自治会会長、幼稚園園長、PTA会長、弁護士、元校長、元会社役員、国立小学校教諭、消防署職員

応援歌をつくろう —すすめすすめ 明日へ

(1) 高二小の応援歌をつくろう

教員の子ども達に対する思いを知りたい、教員に学校運営協議会を理解してもらいたいとの考えから、教員とワールドカフェ形式での懇談会を行った。テーマは「高二の子どもたちの素晴らしさを一言で表そう」。言葉を集めて応援歌をつくり、26年4月の新校舎落成式で歌おう、と話合った。和気あいあいとした雰囲気が出るなか、活発な意見交換をした。

(2) 避難所運営ゲーム

校内の防災教育研修会にCS委員が参加し、避難所運営ゲームを行った。「いざ」の場合に避難所を立ち上げる難しさや配慮点など共通理解を得ることが出来、有意義な機会となった。その成果か、教員とCS委員が廊下で出会ったときなど、気軽に話しかける姿を見かけるようになっている。

(3) 道徳授業公開講座への参加（26年7月）

6年生の授業で「あなたならどうする・人が倒れていたら」の場面で、映像を見た後に参加者が少人数に分かれ、児童の考え、保護者・地域の人の考えを出し合った。児童は授業を通して、道徳的実践力の育成に繋がったと思える。この様な授業に参加できたのは、校長の学校経営力の高さ嬉しく思う。昨年度、地域運営学校に指定されたばかり。成果を急がず課題に正対していきたい。

【写真】 避難所運営ゲーム（HUG）の協議中。防災教育研修会にCS委員が参加し、避難所運営ゲームを行い、教員とのコミュニケーションを図りました。

07 富士見丘小学校

平成21年10月指定



【委員の構成】校長、俳優、おやじの会世話役、元PTA会長、大学教授、元千代田区教育委員長、文化庁職員、学校支援本部部長、元PTA、大学准教授

【写真】劇作家・演出家である平田オリザ氏による、解説付きの演劇ワークショップ研修。富士見丘小学校の特色ある教育は、「コミュニケーション教育」としての「演劇」です。教員とCS委員が共有できるように実施しました。

60周年記念事業への提案

平成26年度は、富士見丘小学校の60周年に当たります。この60周年記念事業に関する議論が非常に盛り上がりました。

周年事業として記念式典だけを考えがちなところ、学校運営協議会として、通常の学校行事も含めた平成26年度を通した教育活動全般を周年事業として位置付けることを提案しました。その提案を受けて、学校も周年事業と教育課程を組み合わせる工夫を行うことができました。例えば、フジミンというオリジナルキャラクター作りやフジミンの歌の作成など、児童が積極的に関わった成果を周年事業として発信していくことができ、60周年というものが、形だけの記念式典ではなく、児童の心にきちんと残るものとなっています。

これは、学校運営協議会委員が様々な経歴、経験を持つメンバーで構成されているからこそできたことであり、単に意見を言うだけでなく、助言やアイデアも提供し、共により良い学校へという思いを共有できているからこそその成果であると考えています。

今後も、苦言も呈するけれども、助言やアイデアも提供し、学校運営協議会の本務であるジェネラルマネージャーとしての役割を果たしていきたいと思っています。

08 堀之内小学校

平成22年4月指定



【委員の構成】校長、青少年委員、元PTA会長、元民生委員児童委員、保護司、元大学准教授、元教育委員会指導室長、元校長、学校支援本部員

子どもの「今」「これから」を話し合う

学校運営協議会で一番盛り上がったこと、ということですが、学校運営協議会は、ある意味直接学校活動には、関わりは薄い気がします。

堀之内小では学校支援本部、PTAとの連携が非常にうまくいっていると思います。学校の特色、方向性を学校運営協議会で話し合い、その方向性に沿って学校支援本部、PTAが活動しています。

そもそも学校運営協議会と学校支援本部の違いは何か？PTAとの関係はどうなのか？しっかりみんなで議論し、関係を作ってきました。学校支援本部、PTAの活動の中に学校運営協議会での話し合いが活かされています。学校運営協議会の会議に、PTAの方や学校支援本部の方、又、先生方に来ていただき、色々話を開いてきました。

一番盛り上がったことと言えば、会議の中で、子ども達の「今」「これから」を思い、みんなで話し合っているときだと思います。

【写真】学校運営協議会と学校支援本部の違いは何か？PTAとの関係はどうなのか？しっかりみんなで議論し、関係を作ってきました。

09 方南小学校

平成24年4月指定



【委員の構成】校長、学校支援本部員、PTA会長、放課後子ども教室代表、学校支援本部本部長・本部員、元大学教授、大学教授、おやじの会会長、自治会会長、町会会長

「共有・共創プロジェクト」の推進

「方南小の子ども達を取り巻く状況を見つめ直そう。そして方南小の未来図をみんな創り出そう」と学校運営協議会委員と教職員との協働で「共有・共創プロジェクト」を進めてきました。学校運営協議会委員と教職員との懇談会や保護者・地域の方も参加したパネルディスカッションでは、皆さんの方南小への熱い思いを肌で感じることができました。

「まちの子ども達のために、おせっかいなおじさん、おばさんを増やしていきたい」、「地域や保護者など様々な立場から、子ども達のために何ができるのか考えていこう」、「まちの人達のエネルギーを集約して、ベクトルを同じくすることが大切だ」、「そうした大人の姿を見て、子ども達の中からチームの意識、仲間のために何かしようという意識が出てくるとよい」などという意見が出されました。

26年度は、CS委員を中心に、年間3回の懇談会を予定しています。これからも、「チーム方南」として保護者・地域・教職員が、それぞれの思いをフェイス・トゥ・フェイスで交換し合い、より活力のある学校を創っていきます。

【写真】CS委員、PTA役員と教職員との懇談会の一コマ。この日は「子ども達が輝く瞬間」というテーマでワールドカフェを行いました。

10 三谷小学校

平成17年4月指定



【委員の構成】校長、自治会役員、学校支援本部員、PTA会長・元PTA役員、会社代表取締役、幼稚園園長、元青少年委員

「皆が何かを言う」グループ討議

三谷小の学校運営協議会では「グループ討議」をよくやります。とくに、出席者が多い会合（定例会で全教員が出席する場合や、PTA役員との交流会など）などで、「皆が何かを言う」参加型のやり方で好評(?)です。

9月例会は「PTA役員との意見交換」がメインでした。保護者、担当教員数名ずつに協議会委員の計25人が参加。お題は「父母や地域の声を集める工夫は?」「PTA活動をやって良かったことは?」で、班ごとの意見出しに15分（白熱して20分に延ばす）、その後、各グループで出た主な意見をグループの代表が2~3分程度で全体に報告（この日は5グループで15分かかる）。

色んな意見が出ます。「参加できてよかった」「意見を出してもらうには『参加してもらうこと』が最も有効」「保護者や地域の参加で、教員は安心でき、学校はうまく回る」「家庭の都合や

希望に応じて、いろんな形の参加ができるような工夫を」「子どもの母校は我が母校」~にぎやかな異業種ミーティングのようで楽しいです。詳しくは、近々リニューアル予定の有志運営のウェブサイトにお越し下さい。

⇒ <http://www.sanya-cs.jp/>

【写真】「和気あいあいの班別報告シーン」PTAで同じ役割の父母と先生を配置し、委員も均等にグループに分かれます。自分の考えを話すのも楽しい、聞くのも楽しい。発見も多く、学校を知るのにとっても役立ちます。

11 松ノ木小学校

平成24年4月指定



【委員の構成】校長、学校支援本部長・本部員、会社代表取締役、元町会長、商店会会長、大学非常勤講師、元教諭、元杉並区体育協会会長、元民生委員児童委員、元PTA役員

ではないでしょうか。そのためにも本運営協議会としては、様々な場面で小学校を核として、地域の人々が関わりあえるコミュニティであるように協力していきたいと思っています。

【写真】毎年恒例となっている防災訓練。昨年は消火器をはじめ10種類の訓練をラリー形式で行いました。都内に3台しかない指揮統制車（消防車）に、実際に中にも入れていただき、子ども達も大喜び！

「防災」への取り組みで地域をつなぐ

地区内の30%は東京都より広域避難場所に指定され、本校は震災救援所を設置し、防災に力を入れています。

常に、震災等の発災時を想定した定期・随時の防災行事を実施し、例年秋に開催している総合震災訓練は松ノ木小学校を会場とし、松ノ木防災会と松ノ木中学校・松ノ木小学校震災救援所との共催が恒例化しています。杉並消防署馬橋出張所・区防災課・杉並消防団第二分団などの他団体の協力も得ながら、10種類前後の訓練体験ができるので毎年800人ほどの参加があります。

昨年度は新しい取り組みとして、訓練についての校内放送を地域の国際化の配慮から日本、英国、中国、韓国の人々がそれぞれ母国語で説明して大変好評を得ました。また、今年度はPTAの協力を得て、防災食の炊き出しも行います。毎年、学校や様々な団体と協力し、多くの地域の方の参加もあり盛り上がります。

震災訓練で必要なことは、例え名前は知らなくても、同じ地域に暮らす人々が顔見知りとなり、いざという時に協力し合うこと

12 天沼小学校

平成22年4月指定



【委員の構成】校長、元おやじの会会長、PTA役員、商店会会長、町会長、弁護士、私立小学校元校長、公益社団法人会員、文部科学省中央教育審議会委員、学校支援本部員・本部関係者

なは一つのチームである」という気持ちを共有することができるのと同時に、学校運営協議会委員は立場の異なる様々な人々からの意見を聞くことができ、今後の活動に大いに役立っています。

【写真】サマーワークショップ。「保護者同士のつながり」をテーマに、ワールドカフェ方式で3ターンの熟議を行いました。最後に話し合った内容を発表して共有するので、多くの意見を知ることができます。今年もよい提案が出されました。

チーム天沼・サマーワークショップ

教職員・保護者・地域が熟議する「サマーワークショップ」を行っています。天沼小学校の教育に関わる人たちが一同に会し、これからの天沼小学校の教育について考え合う時間です。

毎年、その年の教育方針からテーマを決め、基調提案の後にワールドカフェ方式で熟議を行います。

26年度は校長先生から「インクルーシブな次世代育成」という、まだ聞きなれない言葉についての説明がありました。「インクルーシブな観点を持つということは、これからのグローバルな社会を生きていく人材に求められる資質である。」「その力を育むために子どもたちは様々な立場の人々と関わり合うこと、本物に触れることが必要であり、天沼小学校では特に力を入れている教育活動である。」と話されました。

ワールドカフェでは教職員・保護者・地域が6人1グループになってテーブルを囲み、打ち解けた雰囲気の中で様々な意見を出していきます。この取組を通して「天沼小学校に関係する人みんな



【委員の構成】校長、自治会会長、町会長、商店街振興組合副理事長、民生委員児童委員、大学特任准教授、大学理事長、学校支援本部本部長、元PTA会長、学校同窓会会長

若手育成の手助け ～学校と一緒に～

「若手の人材育成について」が一番活発な意見がでました。最近の若者はあいさつがきちんとできないこともあるという委員の話から、年配のもの感覚では当然知っているものと考えていることが、若手教員は分かっていないことが多々ある。また、初対面の人に対して身の処し方が分からない事もあるということが話題になりました。

また、大学から社会人になったばかりで、社会人としてのマナー等を身に付けることができていないのは仕方がない。大人が直接気がついたときに本人にその場で指摘していくことが大事だと言う意見がでました。

ベテランの教員も教師として学級経営・学習指導・児童理解など教員としての指導と併せて社会人としての指導も行っていかなければいけないこと。そして、地域の方も地域行事等で若手の振る舞いを見て感じたことを指摘して、若手育成の手助けを学校と一緒に～で行うことも大事なことでないかということが話し合われました。

【写真】 会議は報告事項と協議事項の二部構成になっています。報告事項で主幹を中心に学校行事や子ども達の様子また各部の報告を行っています。また、協議事項では月ごとにテーマを決めて協議を行っています。

※永福小学校は平成21年1月に指定されたが、平成25年4月1日付けで、永福南小学校と統合し新しい小学校として設置されたため、新たに地域運営学校として指定した。

14 杉森中学校

平成17年4月指定



【委員の構成】校長、学校支援本部員、会社代表取締役、元会社代表取締役、PTA役員、大学非常勤講師、大学准教授、元校長、予備校講師

年度の土曜授業には、今までの外国語教育の成果を更に発展させる方向で、何が出来るのかを活発に話し合ってきました。その結果、校長からの提案もあり、土曜授業の取り組みの一つとしてテーマを「国際理解～めざせコスモポリタン」と称して、専門家による各学年ごとの「特別授業」を企画することとなりました。これからの国際社会を生き抜いていくために必要な「コミュニケーションツール」としての生きた英語を生徒が学べるよう、講師に専門家の田畑康先生によるユニークな土曜授業を年間6回で企画することとなりました。

【写真】めざせコスモポリタン！田畑先生の少年時代に体験したオーストラリアやマレーシアでの生活の話から、LとRの発音の違い、動物の鳴き声を英語で表現するとどうなるかなど、体験に基づいた分かりやすく素敵な授業でした。

めざせコスモポリタン～国際社会を生きるために

杉森中学校の学校運営協議会は杉並区の中学校では向陽中学校とともに区内で最初に設置された協議会です。

今まで多くの方々に支えられながら様々な課題に取り組み、学校運営の充実に努めてきましたが、平成26年度は学校運営方針について話し合う中で、土曜授業の具体的な運営の在り方について最も議論は高まりました。

杉森中学校では、従来より外国語学習に力を入れ、英語の少人数授業を実施したり、「イングリッシュサマースクール」といって希望する全学年生徒を対象に学校主催の夏季講座を開催しています。ここでは外国人講師とともに英語による自己紹介から始まって、外国流のキャンプファイアーのやり方、各班ごとに創作した英語劇の発表など10年間行っています。

外国語学習に対する生徒や保護者の関心も高まっているなか、26

15 天沼中学校

平成21年10月指定



【委員の構成】校長、文部科学省中央教育審議会委員、同窓会副会長、保護司、町会長、弁護士、杉並防災協議会会長、大学教授、学校支援本部アドバイザー、学校支援本部部長、元PTA会長

を直接聞く会を設けるなど、生徒が主人公でかつ学校教育活動を担っている教師集団をサポートする活動を創っていきたく考えています。

【写真】学校運営協議会、支援本部、PTA保護者、教員の合同懇談会。前半は、若手の先生によるエンカウンターで和やかな雰囲気を作り、後半は学校評価アンケートの結果を基にこれからの天沼中学校の教育の方向について全員で意見交換をしました。

地域とつながる“しかけ”を創る

天沼中学校学校運営協議会は平成21年10月に発足し、協議会ニュース発行、生徒・教師・管理職との懇談、沓掛小学校と天沼小学校との三校合同会議の開催、学校評価アンケート等に取り組んできました。その中で学校評価アンケートでは、協議会として独自項目を加味・実施し、今年度もその結果について二度三度議論をして、新しい試みにつなげてきました。アンケート項目には、いつの時代にも意義のある学校目標「自主 自律 共生」に関しての意識状況や特色ある取り組みの実態と学校の存在感を問う設問を盛り込みました。調査結果では、特色ある取り組みに関してはとても高い取組み状況が窺えましたが、地域との関わりを重視した取組みについては、相対的に低い自覚率でした。そこで、学校支援本部と協力して『言霊百選』を介して地域の方々との結びつきを創る活動を工夫したり、地域ボランティア活動に取り組んだことが確認できる天沼CSシールマークを生徒に公募して作成するなどの試みをしつつあります。これからも生徒や教師の声

16 中瀬中学校

平成24年10月指定



【委員の構成】校長、元PTA会長、民生委員児童委員、学校支援本部本部長、元都立高等学校校長、大学准教授、保護司、地域住民、青少年委員

す。いじめや不登校の回答では回答不能が四分の一です。このことは、保護者は家に帰ってきた子どもしか見てないので、過去に親として悩んだ経験から理解できます。

■今後、26年度に検討した本協議会作成の保護者あてアンケートを実施する予定です。

【写真】学校運営協議会主催のPTAとの懇談会。円滑な進行を図るためにはじめに学校運営協議会委員がエンカウターの説明をしているところです。会が和み、意見交換がスムーズに行われました。

アンケート調査を通して見えたもの

中瀬中学校の学校運営協議会の特徴は、調査です。一年目は、教員対象の教育課程の実施状況調査を行い、二年目は、委員が協議会に臨む姿勢についての考えを調査するアンケートを実施しました。調査用紙の作成では、区教育委員会作成の地域運営学校（コミュニティ・スクール）のQ&Aを参考にしました。この調査により委員の考えを知ることができ、さらに、忌憚のない意見が出ています。

平成25年末に保護者・生徒対象に実施した杉並区「教育調査」の結果をまとめた学校通信No323号のデータについて委員が検討しました。委員が調査を経験したことによる分析力と思います。

■生徒のアンケート結果に対する感想：学習の感想では、多くの生徒が授業は学力向上に役立っていると答え、学習に満足している。これを見る限り中瀬中学校は良い学校と思いました。

■保護者のアンケート結果に対する感想：子どもの学校生活に対する満足度では肯定的な回答が多い。これは素晴らしいことと思いま

17 井荻中学校

平成25年4月指定



【委員の構成】校長、防災会会長、幼稚園園長、民生委員児童委員、元全日本中学校長会会長、発達支援センター所長、学校支援本部員、元大学教授、保護司

学校環境の見直しにチャレンジ

井荻中学校の学校運営協議会は、平成26年度に2年目を迎えた若い組織です。1年目は、委員全員が積極的に会の運営に参画できるように、会のほとんどを委員相互の情報・意見交換に費やしました。2年目の26年度は、学校や教職員の負担軽減と学校環境の見直しによる教育力向上へ支援を行動に移す年と位置付け、取り組んでいます。

その一環として、校庭の水はけの悪さとアリーナの音響の問題を解決するための実況検分と検討は、大変有意義なものとなりました。酷暑の中、涼しい会議室での会議から、校庭・体育館へと場所を移し、問題点を全員で確認・共有しました。特に校庭の構造に詳しい委員からレクチャーを受けながらの検分では、学校環境と生徒の活動機会との密接な関連性を体感でき、また検討の過程で学校運営協議会の活動の方向性についての共有化も図られた会となりました。

こうした取組の過程で、全ての委員から学校運営・学校支援に関する積極的な意見・提案が出始めたところです。今後も、学校の教育力向上に資するようなチャレンジをしていきます。

【写真】酷暑のなかで校庭（グラウンド）視察。学校運営協議会の会議当日が、ちょうど雨天明けの日となり、メンバーは校庭環境が生徒の運動機会や怪我のしやすさに影響することを実感しました。

18 井草中学校

平成19年4月指定



【委員の構成】校長、学校支援本部員、青少年委員、元PTA会長、大学専任講師、元会社代表取締役

懇談、グループごとに発表)」の開催－26年度は「井草中の将来について語りあおう」をテーマに懇談、「地域・保護者・学校が一体となって「チーム井草・井草魂」でがんばっていききたい」等々、前向きな発表が多くされました。このほかに「コミ担研修会」の開催－コミ担と教員が学校・生徒の現況や今後の行事等について意見交換を行う場を設け、円満なコミュニケーション・人間関係を築いています。

【写真】「コミ担」が運動会で応援。各クラスカラーのコミ担Tシャツで生徒とともに声援を送っています。このほか、ゲストティーチャーとして総合の授業等の支援、合唱コンクールの応援を通して生徒達と交流。

「コミ担」制度で生徒と交流

井草中学校は、平成23年度に、第1回優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞しました。井草中の特徴としては次の三点が挙げられます。

(1)「**コミ担**」制度－学校運営協議会委員や学校支援本部の方々が学級サポーター（愛称「コミ担」）として、生徒を見守り支援する独自の方式。

(2)「**双方向性**」－生徒・教職員がコミ担・PTAと共に地域の活動に参加、各種地域行事（例：早大ラグビー部北風祭、区民センター、小学校、児童館、商店会や防災訓練）等にボランティア活動や吹奏楽の発表等で参加し、地域貢献しています。

(3)「**教員とのコミュニケーション**」－「学校運営協議会交流研修会（学校運営協議会・支援本部・PTA、教員がテーマを決めて

19 荻窪中学校

平成21年10月指定



【委員の構成】校長、商店会連合会会長、元商店会連合会会長、学校支援本部員、大学准教授、元PTA会長・元PTA役員、元青少年委員、同窓会副会長

15歳ビジョンを共有する

「学校運営協議会を中心に学校支援委員会（おぎすけ）、近隣の小学校・高等学校・大学、地域・保護者との有機的な組織体の構築」をめざし、年間を通して「知る」、「つなぐ」をテーマに、教職員・学校支援委員会・PTA・生徒会役員との懇談会や研修会を実施しています。

平成26年7月に実施した学校運営協議会懇親会は「コミュニティ・スクールの一員として、荻窪中学校の生徒の育成について、よりよい方向を話し合い、行動する」ことを目的に開催しました。参加者は5グループに分かれ、「地域が学校に学ぶ・学校が地域に学ぶ」「15歳ビジョンを共有する」のどちらかのテーマを選び、話し合いをしました。土曜日の夕方にも関わらず34名（PTA役員会23名、支援委員会6名、学校運営協議会5名）の参加があり、こういった活動へのニーズを感じることができました。

【写真】この日の学校運営協議会では、「子どもの自立」「受験生の親の心得」「携帯電話、スマホ等の扱い」「地域の中学生の居場所」など様々な話題で盛り上がり、時間が足りないほどでした。

20 富士見丘中学校

平成23年4月指定



【委員の構成】校長、保護司、元青少年育成委員、町会長、元PTA会長、社会福祉法人会員、スクールソーシャルワーク協会会長、新聞社記者、青少年委員、学校支援本部員・学校支援本部本部長

教員・生徒会・PTAとの懇談

学校運営協議会の前身、「学校評議員会」の時から富士見丘中学校が独自に行う「学校生活に対する意識調査アンケート」が、調査開始から11年になります。アンケートは、毎年2学期に全生徒、保護者、教員に対して行われ、集計後グラフ化されて年度内に学校、家庭へ結果報告を配布しています。「学校の様子」や「各学年の特徴」、「生徒や親の意識」などがより集約されるよう、アンケート内容については毎年学校側と見直しをしています。アンケート結果は、アンケートの最後に設けている「自由意見の記入欄」に寄せられる多くの声と共に、学校運営協議会が学校運営に関わるうえで参考になり、貴重な声として役立っています。ここ数年は、学校運営協議会委員が各教室へ出向き先生不在でアンケートを行うことで、生徒が自由記述しやすい環境を作っています。また、年間を通して行っている各教員・生徒会役員・PTA役員との面談は、さまざまな意見が聞ける場、学校運営協議会委員とのコミュニケーションの場であり、学校運営協議会を理解してもらう上で欠かせない活動です。

【写真】生徒会役員の生徒との協議。年に1度、生徒側の代表として、学校内の雰囲気や生徒・教師の様子など、かなり細かいところまで話をします。特にいじめや体罰については繰り返し尋ねます。

21 向陽中学校

平成17年4月指定



【委員の構成】校長、地域住民、PTA会長、元PTA会長、大学評議員、会社代表取締役会長、杉並法人会会員、学校支援本部本部長

アンケート調査でPDCAを回す

向陽中学校の学校運営協議会（以下協議会）で「特に一番盛り上がったこと」は記憶にありませんが、良いところを伸ばし、問題点を一つでも多く解決できた時の喜びを糧に活動を続け、地域運営学校の指定を受けてから10年目を迎えています。

その中での活動の基盤は、保護者や生徒のご意見を伺うための毎年のアンケート調査かと思えます。その貴重な調査結果を教育委員会、学校、保護者、生徒や地域にフィードバックさせて頂き、対応の確認をし、PDCAを回しています。

例えば教育委員会には、学校の一部フェンスが低くテニスボールが隣の運動公園の歩行者に当たる恐れや、フェンスを乗り越え侵入される安全上の問題をフェンスの嵩上げで防いで頂きました。また、学校には2学期制から3学期制に変わった時1学期の中間テストが無く、失敗すると取り返せないのご意見を学校側に申し入れ、校長先生や諸先生の努力で中間テストが実現し、生徒に再チャレンジの機会ができました。そして、生徒には「挨拶

の大切さ」を機会あるたびにお伝えし、実践して頂いているので向陽中学校を選んだ理由としても挙げられ、生徒と先生との風通しも良く、アンケートでも評価されたのは喜びです。

【写真】全体会議。原則的には月1回の会議が図書室で開かれ、審議等がなされているところです。これ以外の会議は先生との年3回の合同研修会や年2回の保護者との懇談会等があります。

22 松ノ木中学校

平成25年4月指定



【委員の構成】校長、学校支援本部員・学校支援本部本部長、元町会長、元大学教授、元校長、青少年委員、元PTA役員

KJ法的手法で考える

(1)学校運営協議会の今後の活動を下記のKJ法的手法を用いて、考えることにしました。

学校運営協議会委員一人一人に10枚のカードを配布し、「松ノ木中のために何をやるか」記入する。次に①家庭教育 ②学校教育 ③社会教育 ④その他 に分類して模造紙に貼りつける。そして、貼付した一覧表を分析して問題点等を確認し、学校経営に委員一同、心を一つにして地域運営学校としての確かな一歩を踏み始めることにしました。

(2)地域内にある学校運営協議会3校（堀之内小・松ノ木小・松ノ木中）の合同会議を開催し、小学校、中学校としてのスタンスの違いはあっても、地域に根ざしての活動をしていく中での課題（学校運営協議会と学校支援本部との違いを保護者や地域の人たちに理解してもらうことなど）は同じであり、本音での議論が深められたことも盛り上がったことである。

【写真】松ノ木中学校学校運営協議会が主催した「堀之内小・松ノ木小・松ノ木中」3校合同会議。本音で熱い議論をし、寒さも忘れるひとときでした。

23 和田中学校

平成19年4月指定

【委員の構成】校長、町会長、学校支援本部本部長・学校支援本部員、民生委員児童委員、保護司、大学特任講師、大学教授、元青少年育成委員、元保護者の会役員、独立行政法人職員

小中一貫教育を意識しながら

平成26年度7月の会議において、小中一貫教育を意識して、小学校の授業見学を計画しました。

中学校の協議会委員であるのに小学校児童の姿を見学することに、初めは疑問を感じている方もいましたが、まずは将来の和田中生の若き発達段階を知るのも良しとし、実施することになりました。

見学したあとは、「中学生と比較するとかわいい」、「中学校と比べると授業内容が易しいね」、「5,6年生になると落ち着かない子どもがいるもんだ」等、様々な意見が出されました。また、今後、小中一貫教育を考慮した学校の動きをどう計画していかねばならないか。また、先生たちは小中一貫教育をどのように捉えて小学校と交流していくのがより良いものとなるのか等の課題が残るが、学校には、今後も一貫教育の取組みについて経過報告をしていってほしいという話し合いになりました。



■ 指定 1 年目の学校運営協議会

NEW!

平成26年度は、新たに小学校4校を地域運営学校に指定しました。

それぞれの学校運営協議会に「これから協議したいこと」について伺いました。

24 東田小学校

平成26年4月指定

【委員の構成】校長、青少年育成委員、地域団体メンバー、元青少年委員、町会役員、元校長、PTA会長、青少年委員、学校支援本部員

1. 学校の現状をより理解するため、関係者（先生方、保護者、生徒等）との懇談の場を設けたい。
2. 学校と地域との関係は、学校支援本部やPTAは無論のこと、「おやじの会」・「地域の会」などが従来より活動されているが、より地域との親密度を深めるため、「学校運営ボランティア制度」（仮称）を設けることなどを検討していきたい。

学校運営協議会が発足して約9カ月。委員各位もまだ戸惑いとともに、学校へどのように貢献をすべきか霧のなかにいる状態だと思えます。

25 大宮小学校

平成26年10月指定

【委員の構成】校長、PTA会長、元PTA会長、町会長、幼稚園園長、大学教授、学校支援本部員、元青少年委員

大宮小学校学校運営協議会は平成26年10月より始まりました。メンバーは、主に地元で活躍されている方々です。本校は開校137年の歴史と伝統のある学校です。一時期、児童数が減少した時期がありましたが、地域と保護者の皆様と学校が力を合わせその危機を乗り切った歴史もあります。

そんなことから、地域の方々の学校に寄せる思いはとても強いものがあります。保護者の皆様の学校への愛着も強く感じられます。学校運営協議会ではそういった地域の方の熱い思いや、PTAの方の願いや思いを学校の力に変えていけるよう家庭・地域・学校がそれぞれの立場でできることを考えていこうと思います。

私たちの活動の先にあるのは子ども達の笑顔です。子ども達の笑顔のために大人が本気になれる学校運営協議会を目指します。

26 高井戸東小学校

平成26年4月指定

【委員の構成】校長、民生委員児童委員、学校支援本部員、商店会会長、児童養護施設施設長、会社代表取締役、青少年育成委員、元PTA会長

高井戸東小学校の方針に基づいて、先ず委員が十分理解した上で今まで実践してきた路線に則り、地域の特性を活かした活動に向けて、丁寧且つダイナミックに進めていきたいと考えています。

- ① 学校が掲げる方針を十分理解する。子どもにとって楽しく学び甲斐のある魅力的な学校作りへの応援
〔より良い学校教育を支援する・先生を助ける(負担軽減-尊敬の後押し)・子ども達と頻繁に関わる〕
- ② 家庭教育の充実、おせっかい、生活の落ちこぼれを無くす、子どもたちのエンパワメントの向上
〔しつけの見直し・PTAの活性化・さらなる父親の活躍・明るく素直な意見表明ができる環境作り〕
- ③ 地域の活性化、地域の見守り、地域行事と学校行事との連携、学校施設設備の利用、高齢者の活用
〔地域の遊び場(交流場)作り・元気で有能なお年寄りの登壇・地域の核としての小学校の役割と活用〕

【委員の構成】校長、商店会会長、絵手紙文化連絡会役員、元PTA会長・副会長、元大学教授、元校長、町会役員、自治会副会長、学校支援本部員

学校教育の質的転換を図るためには、次のような具体的行動計画（action plan）実践可能で教師も、子どもも、学びあえる教育環境を確立構成する必要がある。

（1）地域の教育資源の開発及び活用に地域社会の人々の協働作業の実践をする。→無縁化から共縁化へ

①高齢者の知性を生かす支援を交流。→孤立から交流へ

① 支え合う会 ② 民生委員 ③ 協力者

②地域社会にある伝統文化（食文化、異文化、交流） ～歴史づくり～

③子ども同士の交流による環境利用 身体をはって遊ぶ活動（スポーツ、環境美化等）

④栽培活動、群れ遊び体験できる場の保全参画行動（内藤さんの農業体験 e t c）

空き地 空き家 ～モノづくり～

（2）幼小中学校との有意性ある交流＜学社融合＞

①相互協議で学ぶ・強調 必要に応じて意欲的交流参加

（教師・父母・地域参加）

②テーマ研究の共同身体組織的活動

1) 授業づくりの参加

2) 教材活用

3) 総合的な学習の充実化のための接近

③生命・環境倫理観形成講座 啓蒙活動 世代間の倫理



本報告書及び地域運営学校成果検証調査の集計結果は、
杉並区教育委員会のホームページでご覧いただけます。

杉並区教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>

トップページ > 学校教育 > 地域運営学校（コミュニティ・スクール）

地域と共にある学校

地域運営学校成果検証調査及び平成 26 年度すぎなみ教育シンポジウム報告

平成 27 年 3 月発行

発行 杉並区教育委員会事務局 学校支援課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号

電話 03-3312-2111（代表）

登録印刷物番号

26-0120
